

第2回鳥取県東部地域交通まちづくり活性化会議 概要

- 1 日時 令和5年1月23日（月）13時～14時
- 2 場所 鳥取県立図書館大研修室
- 3 参加者 別紙「出席者名簿」のとおり
- 4 内容

○会長あいさつ：平井鳥取県知事

- ・大変お忙しいところお集まりいただき感謝申し上げます。卯年に、自治体、各交通事業者が勢揃いし、これから東部地域のまちづくりと交通の活性化に向けた取組を進めようとしている。町が元気になると需要が創造され、その背景には、観光利用、学校での利用、通院や日常生活上の利便に関わる。
- ・コロナで厳しい状況となったが、知事会で、政府に度々申し入れており、岸田総理が金曜日に5類への移行を目指す方向性を打ち出されている。コロナの峠を越えかけているところであり、これから私たちは望む方向に地域を導き、交通の需要を創造していかなければならない。
- ・これまで事務ベースで話し合いをさせていただき、データの分析や、各交通事業者の状況等をお互いに共有することができた。
- ・JRの路線については、今年度も観光利用を進めていただいたが、新年度も実施していくべきと考えている。
- ・皆様がクロスで協力いただき、交通の利用を組み合わせた MaaS は、観光や地域情報の発信とも繋がっていく。
- ・地域の中でも、バスと鉄道の両方が使えるというシステムが動き始め、今後も大きく展開していく必要があるのではないかという意見も出てきている。
- ・2025年には大阪関西万博が開かれるが、世界中の旅行需要を山陰にも引き込むことができるかもしれない。実現できるようにしていくことが、この会議の会議たるゆえんではないかと思う。
- ・皆で一致協力してできることが見え始めた頃。JRと自治体の間での協力関係をさらに強固にすることも含めて、今後話し合いを進めていければと考えている。意のあるところも酌んでいただき、積極的に実りの多い議論を賜るようお願い申し上げます。

○報告事項、協議事項1について、事務局から説明（資料1に基づき説明）

- ・ p 2：公共交通の輸送人員の推移（路線バス、鉄道、タクシー）は、いずれも減少傾向。マイカー保有台数はH17まで上昇傾向であり、その後高い水準で維持されている。マイカーの普及に伴い公共交通利用が減少していることが見える。
- ・ p 3：智頭急行は、H21に輸送人員が大幅に減少。H20のリーマンショックの影響とみているが、その後約9年間かけて元の水準に達している。R2には、コロナの影響で大きく落ち込んでいる。
：若桜鉄道は、観光列車の導入、行き違い施設の整備、高校生の通学費助成の開始などもあり、増加傾向に転じている。全国の第3セクター鉄道の中でコロナ禍において唯一、輸送人員を増加させた鉄道。
- ・ p 4：バス・タクシーの乗務員は、減少傾向が続いている。バスではコロナ前から70人減少、タクシーでは2割減少と、乗務員不足が深刻な状況になっている。
- ・ p 5：通勤・通学時の利用交通手段について、県全域、東部地域、富山市を比較。いずれの地域も自家用車利用が大半を占めている。公共交通利用は、県全域、東部地域では減少傾向になっているが、富山市では現状を維持しているということがわかる。
- ・ p 6：富山市では、公共交通の再構築を実施しており、LRT（路面電車）の導入、沿線への居住推進のための住宅建設費の助成、家賃助成など、住居や商業の集積を図っている。これによりできた町を団子、町と町を結ぶ公共交通を串と見立て、まちづくりで公共交通を維持されている。
- ・ p 7：姫新線は、H22に高速化工事が完了し、新型車両の導入が行われ、あわせて300万人乗車作

戦という利用促進を実施されている。取組により、利用者は、H21の238万人からH30には322万人と約100万人増加。鉄道と住民、企業等、それぞれが一体となって運動を行ってこられた成果だと考えている。

- ・ p 8 : 東部地域では、人流データによる人々の移動を調査分析し、移動実態に合わせた公共交通体系の整備を検討している。(p 9 : 会津若松市における人流データの活用事例)
- ・ p 10 : 利用交通機関別の観光入込客数については、R3に自家用車のシェアが県外者で72.0%、県内者92.1%で、R1と比べて自家用車での移動を選ぶ傾向が表れている。
- ・ p 11 : 観光列車運行による経済効果等が上がった事例として、伊予灘ものがたりと、指宿の玉手箱を紹介。経済効果等の大きな成果を出しているが、JRの努力だけでなく、沿線自治体、観光事業者等と一緒に頑張っていることが大きな要因ではないかと考えている。
- ・ p 12 : 観光MaaS (setowa) については、JRから説明があるため割愛。
- ・ p 13 : ワーキングや東部地域公共交通活性化協議会で議論を行い、論点を整理したもの。(1) ~ (3) について、活性化会議において重点的に議論してはどうかと考えている。
- ・ p 14 : ワーキングと東部地域公共交通活性化協議会の議論をまとめたもの。
- ・ p 15 : 活性化会議の合意事項案を事務局で作成。関係機関が連携し、実行可能なものから速やかに実践を行うということについて、合意いただきたい。

○JR西日本山陰支社 佐伯支社長

- ・ 7月の第1回活性化会議以降、下部組織である活性化協議会のワーキング等で、議論・検討いただいた。詳細な調査結果に加えて、今回の様々な視点で、今後の調査検討に係る方向性について整理をいただいた。内容をしっかり受けとめ、地域交通の課題について検討を進めていきたい。

○JR西日本山陰支社 和田副支社長

- ・ MaaSは、公共交通を一元化するサービスとして、移動手段、経路検索、予約決済、利用までを、スマートフォン一つで提供できるサービスという考え方である。観光型のMaaSをtabiwa、日常型のMaaSをWESTERとして2つのタイプがあるが、最終的には連携することを検討中。
- ・ 2025年の大阪万博に向けて、関西MaaSを2023年の夏頃に整備する予定。山陰方面と兵庫については、2023年の冬頃にtabiwaへの接続をしていきたいと考えている。関西エリアで広くMaaSで繋がっていき、2025年の大阪万博の際には活用できるものにしていきたい。
- ・ MaaSを使うと、チケット・特急券の予約・購入、観光情報、イベント情報等が全てスマートフォンでアクセス可能となる。また、モデルコースの検索等もWESTERやTabiwaを使うことで、スマートフォン上で検索、予約、決済が可能。
- ・ 今後は地域のコミュニティバスについても整備していくことを検討しているため、より利便性の高いものになってくると考えている。
- ・ デジタルスタンプラリーは、現地にスマホを持って行くだけでスタンプが押せる仕組みであるため、今までのスタンプラリーよりも簡易でタイムリーなイベントができる。
- ・ 観光振興の取組では、あめつちの因美線の初運行で大変お世話になった。また、JALとJALパックと一緒に少しハイグレードな旅行も提供させていただいた。とても好評いただいたところであり、地元の皆さん方にも大変お世話になった。
- ・ あめつちは5周年を迎えるため、運行エリアの拡大について、具体的な検討に入っているところ。来年度については、因美線や鳥取以東の運行を考えてみたいと思っているため、ぜひ協力いただきたい。
- ・ リバイバル急行砂丘号の運行の際も、とても協力いただき感謝する。
- ・ 記念入場券を販売しているが売れ行きはとても好調。因美線の90周年の記念入場券も1800セット完売。懐鉄という入場券を作っており、西日本管内24駅で販売している。既に3万枚売れているが、この入場券を買うために各駅を回るお客様がとて多くなっている。今年の12月31日まで連続して売りながら、お客様の周遊を図って参りたい。

○JR西日本山陰支社 佐伯支社長

- ・生活利用については、公共交通の利用は鉄道のみだけでなく全体で減少しており、マイカーより優位性を生み出せてないという状況。
- ・2022年10月から12月に実施した、若桜谷共通パスの実証実験については、母数は少ないが、今後アンケート分析をしながら、利用ニーズ、商品設定、周知等をトレース、改善していきたい。
- ・今年度、バス事業者とダイヤ改正に関する検討の場を設定させていただいた。地域の輸送資源を総動員し、地域のまちづくりに合わせた交通体系の実現に向けて、引き続き議論を深めさせていただきたい。
- ・沿線市町、交通事業者との連携ということで、MaaSのアプリがキーになると考えている。地域のコミュニティバスの時刻も連携可能であるため、きめ細かく利便性向上に取り組んでいきたい。
- ・鳥取市では、2023年春から循環バスくる梨にICOCAを導入いただく。引き続き、DXの推進に取り組んでいきたい。
- ・観光型MaaSのアプリ tabiwa が、山陰エリアにも拡大していく。2025年度に控える関西万博に向けて整備が進められている関西 MaaS と親和性の深いプラットフォームであるため、地域間競争があるが、山陰エリアにお客様を呼び込む努力をしていきたい。
- ・観光列車については、昨年夏に因美線で初めてあめつちの運行を行った。沿線市町には、おもてなしをいただき感謝申し上げます。今後の運行については、様々な運行パターンを検討しているため、今後も協力をお願いしたい。

⇒ （平井会長）MaaSや観光列車の活用など、地元としても協力しなければならないことがある。思い切って支援を組ませていただくことが必要かと思っている。

○岩美町 長戸町長

- ・観光列車あめつちについては、鳥取以東への運行も実現いただきたい。地元は瑞風のノウハウももっている。定時運行となればありがたい。
- ・鳥取市長とも話をしながら、ジオパーク協議会等も各自治体が点ではなく面に対応していくことについて話を進めていかなければならないと思っている。
- ・提案のあったMaaSに対する情報提供は、ここにいる全ての自治体が当然だと思っている。様々な媒体を使って情報発信する手法の一つとしてのMaaSについては、ぜひ協力させていただきたい。
- ・岩美町では、小中高生の公共交通を利用した運賃助成等を行っている。新年度に向けて、更に利用促進を図るということで、特にバス運賃の均一化も検討しているところ。
- ・高齢者の認知症予防等、高齢者の健康を守ることに視野に入れ、公共交通と観光的な要素を組み合わせた外出を促す機会を創設する取組にも向かっていきたい。全体で連携しながら進めていけたらと考えている。

⇒ （平井会長）あめつちの延伸という話について、地元としても協力しようということであった。ジオパークを貫き、但馬向けになる可能性もあり、広域的にも連携していく必要がある。MaaSへの協力や事業を地元としてもやっということうことであったが、ほかもこのように協力いただきたい。

○日本交通株式会社 澤社長

- ・日交で砂丘センターを持っているが、夕食利用が増えたことにより、砂丘センターの成績が上がっている。大人数が入れる施設が鳥取にはないため、日交の砂丘センターが選ばれているとのこと。
- ・食べるものが人を惹きつけるため、鳥取にはこんな良いものがあるという情報が入ってくると、鳥取に行きたいと思ってもらえる。食のみやこのPRも一緒にすることが必要。
- ・MaaSのことを研究されているため、私も勉強して一緒についていきたいと思っている。

⇒ (平井会長) 食のみやこも PR していく必要がある。最近はカニのシーズンで、カニカニエクスプレスという旅行商品も好調に販売できていると聞いている。砂丘であればらっきょうもあるが、私どもも一緒になって売り込みする知恵を、この会議を発端にして作ってあげればと思う。MaaS の中にも当然そういう地域情報も入ると思う。

○日ノ丸自動車株式会社 中島社長

- ・コロナやドライバー不足などの課題を抱えている現状だが、地域の大切な足となっているバス路線であり、地域の豊かさのためにも、活気ある維持に努めて参りたい。
- ・利用促進は、これからも大切なテーマ。鳥取県、鳥取市において、県民運動やノルデ運動に努めていただいているが、今後も圏域全体で強く押し進めていくことによって、地域の意識も変わっていくと思っている。
- ・鉄道事業者、バス、タクシー、市町村の連携が大切だと思う。連携することにより、バスや鉄道、タクシーの接続改善、乗り継ぎバスへの整理、ダイヤの見やすさやわかりやすさが改善されると思う。利用しやすい環境のヒントが生まれていくと思われるため、連携も大切にしなければならない。
- ・今年の4月から鳥取市がくる梨のキャッシュレス化に入っていられるが、事業者単独では、バス路線全体のキャッシュレス化はとても難しい。鳥取空港の連絡バスなどの一部の二次交通について、キャッシュレス化の行政支援等、検討いただければと思う。
- ・JR から MaaS の話もあったが、MaaS に乗っかっていくことも参考になるかもしれない。

⇒ (平井会長) 利用促進、キャッシュレス化等を含めて、地元としてもしっかり受けとめて参りたい。

○智頭急行株式会社 城平社長

- ・現在はコロナ前の70%を超えるぐらいまで利用が回復。
- ・今年は卯年ということでの鳥取県内への誘客、関西万博での誘客を考えると、京阪神方面や岡山広島方面から鳥取に来ていただく交通手段を適切に確保していくことが、当社の役割だと思っている。
- ・本日の会議に出席されている皆様と協力させていただきながら、MaaS や、様々なことに積極的に参画をさせていただきたい。智頭急行単独でできることは少ないが、力を合わせることによって大きな成果が得られるのではないかと考える。

⇒ (平井会長) 平年比70%まで回復ということであった。うさぎについては、白兔神社もだが、八頭町にもアマテラスオオミカミを導いたという白兔もいる。様々な意味で振興できればと思う。

○若桜鉄道株式会社 矢部取締役専務

- ・沿線人口が減少しており、今後は通学の増が見込めないため、通勤利用者を増やす施策を考えていく必要がある。
- ・湘南モノレールの江の島駅でモノレールサミットにした際でも、お客様からは、ICOCA や PayPay で買い物できないか聞かれることも多く、若桜鉄道だけではなく、観光面のキャッシュレス決済は進めていく必要があると思う。
- ・若桜鉄道はレトロな風景を売りにし、昔ながらの硬券を販売しているが、大阪万博が始まればキャッシュレスの道は避けては通れない。デジタルとアナログの融合した斬新な取組を進めていきたい。
- ・JR を中心に若桜谷共通パスをしていただいたが、町のローカルバスでも取り組んでいただき、取組を進めていければと思う。

○鳥取県ハイヤータクシー協会 岡副会長

- ・行政に支援いただき、観光タクシーを実施している。観光客が鳥取の秘所を観光できるような形、

おいしいものが食べられるような形で観光振興に取り組んでいる。

- ・観光大学として、観光マイスターを育成している。タクシー等に限らず、様々な地域の方も含めて勉強いただき、鳥取に来られた方に鳥取のおすすめ情報を発信できるよう取り組んでいる。
- ・海外、都会、東京、大阪等から来られる方は、キャッシュレス化が進んでおり、鳥取に来ると現金を持たずに来て失敗したという話を聞く。バス、タクシー、JRもシームレスに乗ることができる体系整備が必要。海外のお客様や観光客が安心・安全に利用いただける取組を進めることが大切。
- ・クレジットカードやキャッシュレスができるよう、PayPayが使える形に取り組んでいるところ。最終的には皆様と協力し、来られたお客様や県内の住民がストレスフリーで乗れる公共交通ネットワークを構築していくことが必要だと思う。
- ・まちの整備も含め、東部地域交通まちづくり活性化会議で全体的な取組をしていければ、最高に良い鳥取県ができると考えている。

○鳥取市 深澤市長

- ・人口減少、少子化、高齢化が進んでいる中で、公共交通をいかに維持・確保していくかというのが非常に大切で重要な課題である。生活交通、観光振興について、まちづくりと合わせて考えていく視点も重要。
- ・来年度から100円バスくる梨に交通系ICカード（ICOCA）を導入する。JR西日本の多大なる協力と理解をいただき、実現の運びとなった。利用者の利便性を高めていくこと、県外等から来られた方も、現金を持たなくてもスムーズに利用いただける環境づくりをということで始めたところ。他の公共交通等で同じように利用できるような環境ができればと思う。
- ・観光振興については、二次交通の確保も重要な課題。2025年の万博を見据えて、スムーズに二次交通を利用いただける環境を整えていくことが求められていると思う。
- ・資料2 p13のまちづくりの視点で、鳥取駅南側の活性化、鉄道記念公園の活用等を紹介いただいた。今まであまり利用されていないような空間ににぎわい創出するという視点で取り組んだもの。自家用車に少し依存しがちな状況が鳥取にあるが、歩いて楽しい街であるべき。特にこの市街地等では、公共交通をうまく活用し、歩いて楽しい街にしていくことで、利用促進にも繋がっていくのではないかなと考えている。
- ・人流データ等の分析については、一つの自治体ではなく圏域全体で一元的に分析をした上で、お互いに連携しながら取り組んでいくことが必要。そのための組織などもあったらいいのではないかなと思う。東部圏域で連携をし、一緒になって取り組みを進めていきたい。

○智頭町 金兒町長

- ・今年度因美線90年ということで、あめつちや砂丘号のリバイバル列車を運行していただいた。因美線については、90年の次を見据えて、100年に向けてどういう取組をしていくか、継続した観光列車の運行を続けていく等、視野に置いて取組を進めていければと思う。
- ・智頭駅が今年開業100年という節目になるため、地元としても何かしたいと考えている。智頭駅の腰が重たいような感じを受けるため、佐伯支社長から少し背中を押してもらえればありがたい。

○八頭町 吉田町長

- ・MaaSの取組（若桜谷共通パス）については、課題も一定の効果もあったと感じている。利用者からは、様々な時間で様々な公共交通の選択ができて便利だった、スマホの画面を見せるだけでとても簡単だったと聞いた。鳥取駅の辺りで買い物をする場合、汽車、バス等で出かければ、駐車場に車を停める必要がないという面も良かったと聞いているところ。
- ・今回は、5日間という期間が短い中で、プランを考える時間がなかったという話もあった。今後、利用者等の意見集約を行い、実証実験の課題解決に向けたシステム構築を考えていく必要があると思う。ワーキンググループ等で議論を深めていく必要があると考えているため、よろしくお願ひしたい。

- ・持続可能の観点では、鉄道、バスとも単なる交通手段ではなく、観光面も含めて、何らかの付加価値をつけた新たな取組を、東部圏域や近隣自治体で連携して取り組んでいけたらと思う。
- ・圏域の活性化が一番であるため、行政と公共交通機関との連携によるネットワークが重要と考える。

○若桜町 上川町長

- ・子どもの数は減少傾向にあるため、今後は通勤客の伸びしろに期待しているところ。昨年末に実施いただいた若桜谷共通パスは、今後検証を行い、さらに使いやすいものにしていただきたい。
- ・県域全体でノルデ運動のような乗車運動していただいている。公共交通の利便性やメリットを感じてもらうことで、地域の意識を変えていくことができ、全体の底上げに繋がる大切なことだと思う。
- ・今後は観光客をターゲットにする必要がある。若桜鉄道では、若桜鉄道そのものが観光列車化したリ、沿線や鉄道施設が登録有形文化財になっていることから、鉄道が観光資源になっている。
- ・ツアー利用や、鉄道とバスを組み合わせ若桜に来ていただく形も増えてきており、今後は沿線の観光施設や土産物屋、飲食店と連携し、MaaS のクーポンを活用していくことで、鉄道も沿線の観光施設も儲かり、ウィンウィンの関係を築くことができる仕組みを作っていく必要がある。二次交通も重要。
- ・生活利用、観光利用ともに、公共交通を使うと得になるという状況を社会全体で作っていくことが重要と考える。

○司会：平井会長

- ・資料2 p15 の合意事項案について、すぐに実行するものとして、意見が相次いだ「キャッシュレス化の検討・推進」を追加してはどうか。
- ・県の新年度予算は、骨格、肉付けということはあるが、当然取り組むべき事項として誠実に対応していきたい。観光列車や、MaaS、キャッシュレス化、データ分析等、今後事務ベースも含めて継続して協議させていただきたいということで、取りまとめをさせていただきたい。

—異議なし—

⇒ 資料2 p15 の東部地域交通まちづくり活性化会議の合意事項案に、キャッシュレス化の検討・推進をすぐに実行するものとして加えた上で合意された。

○協議事項2について、事務局より説明（資料2に基づき説明）

協議事項2 規約の改正について、資料2に基づき事務局から説明し、異議なしで改正が承認された。
(改正内容)

令和4年10月1日に西日本旅客鉄道株式会社の組織改正があったことから、第4条に基づく別表について、理事米子支社長を理事山陰支社長に改正するもの。

○司会：平井会長

- ・発足当初は暗中模索の感もあったが、具体的な観光列車が動き出したり、若桜谷 MaaS もできたり、tabiwa という提案もいただいた。キャッシュレス化については、深澤市長のリーダーシップで一部開始された。今後も積極的な推進により、地域交通の発展、維持を図らせていただきたい。
- ・自治体でもどのように支援していけば本日の話が推進できるのか、合意事項の項目ごとに個別に説明・相談申し上げたい。

終了

<出席者名簿>

所 属	職 名	氏 名	備考
西日本旅客鉄道株式会社	理事山陰支社長	さ えき しょう いち 佐 伯 祥 一	
智頭急行株式会社	代表取締役社長	じょう ひら もり あき 城 平 守 朗	
若桜鉄道株式会社	代表取締役専務	や べ まさ ひこ 矢 部 雅 彦	代理
日ノ丸自動車株式会社	代表取締役社長	なか しま ふみ あき 中 島 文 明	
日本交通株式会社	代表取締役	さわ し ろう 澤 志 郎	Web
鳥取県ハイヤータクシー協会	副会長	おか しゅう いち 岡 周 一	代理
鳥取市	市長	ふか ざわ よし ひこ 深 澤 義 彦	副会長
岩美町	町長	なが と きよし 長 戸 清	
智頭町	町長	かね こ ひで お 金 兒 英 夫	
八頭町	町長	よし だ ひで と 吉 田 英 人	
若桜町	町長	かみ かわ もと はる 上 川 元 張	
鳥取県	知事	ひら い しん じ 平 井 伸 治	会長